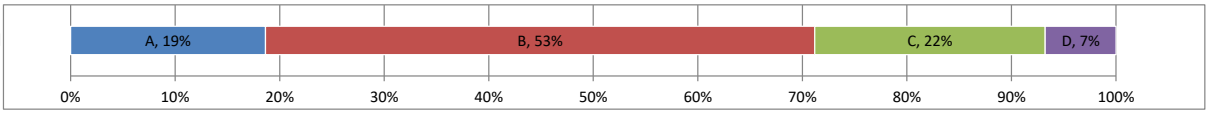
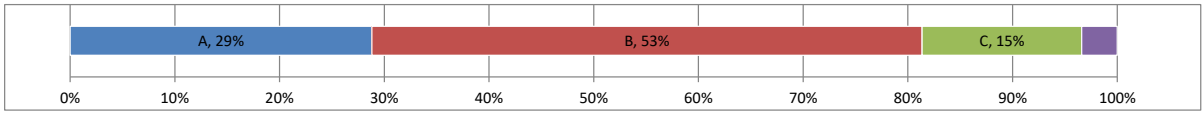
（職員用）　　令和3年度　学校自己評価アンケート

※ A:大いにそう思う B:だいたいそう思う C:ふつう D:あまりそう思わない E:まったくそう思わない

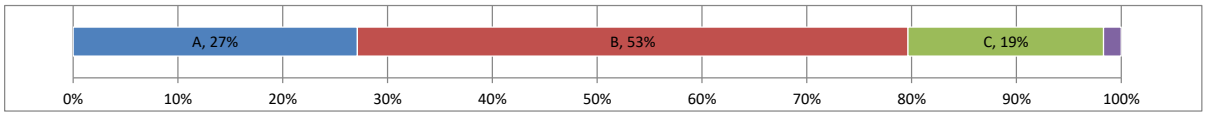
1 獲得している言語力と、もっている可能性から、個に応じた課題設定され、適切な指導がなされていた。



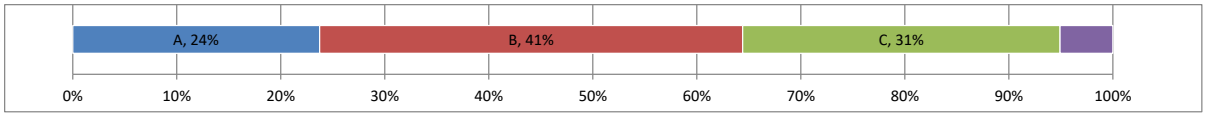
2 人間関係づくりや、社会性などにつながるコミュニケーションの力を伸ばす指導がなされていた。



3 自身の障がいを理解しつつ、自己肯定感を高め、意欲や目標をもって周囲と関わっていくための支援がなされていた。

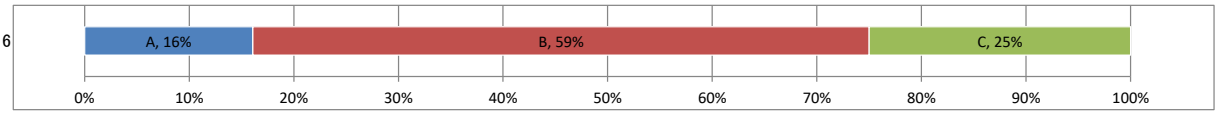


4 社会との関わりの中で自己決定できたり、問題解決できたりする力を育てる支援がなされていた。

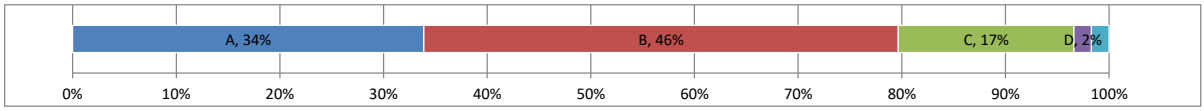


5 教材を工夫し、実態把握を基に分かる授業づくりがされていた。

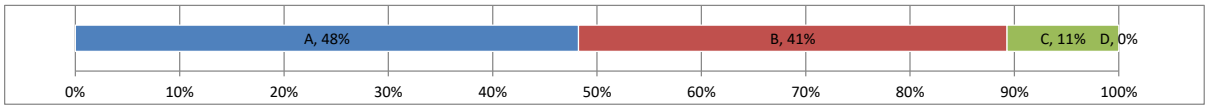
6 子どもたちは、課題解決の目当てをもって学習に取り組み、思考力を高めていくことができていた。



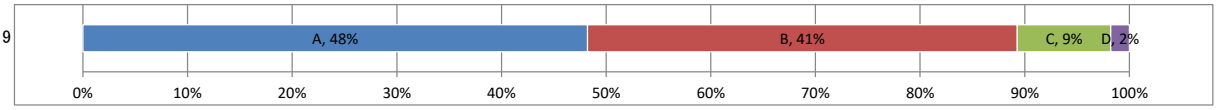
7 健康や安全に関する指導が適切になされていた。



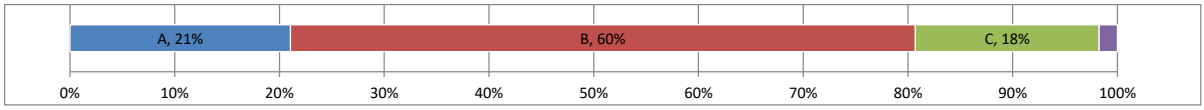
8 聴覚障がい教育の東北信拠点として、地域のニーズに応え、ろう学校への入学や就学、または、地域の学校への転校に向けての支援、相談などの活動十分に行われていた。



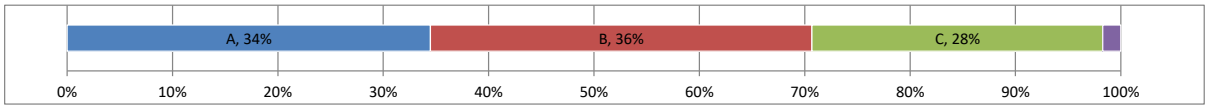
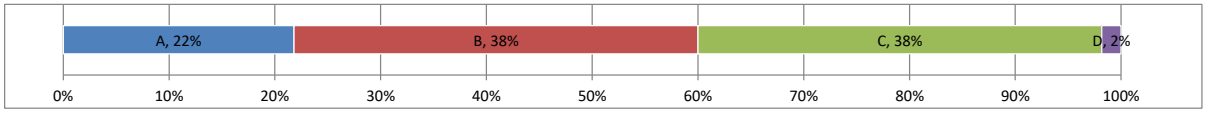
9 支援部を中心に、校内の個々のニーズに応じた相談や支援会議の設定、また、関連諸機関との連携などが適切に行われていた。



10 課題意識をもって研修に取り組み、聴覚障がい教育の専門性を高めていた。



11 FM補聴システム、PDPといった新校舎設備を積極的に活用していた。



12 幼稚部から高等部までの一貫校のよさを生かし、各部職員が連携を図り、学校目標具現のために取り組んでいた。